

## 令和 8 年度 長浜市認知症とともに生きるまち推進会議 議事録(要点録)

日 時:令和8年7月16日(木)13時30分

会 場:さざなみタウン 2 階 多目的ホール A・B

出席委員:松岡俊樹、馬場 直哉、柴田郁子、鈴木 雅晴、阪口 智春、石川 英弘、  
堤 しのぶ、福本礼子、伊吹 清栄(敬称略)

欠席委員:四塚 和美(敬称略)

地域包括支援センター職員:池田・長田(南長浜)、竹内・福田(神照郷里)、  
福井・野原(浅井びわ虎姫)、森・松井(湖北高月)、  
城弟・村上(木之本余呉西浅井)

事務局:長寿推進課 課長河瀬、課長代理星野、副参事佐野、副参事主馬、土田、川上

### 1. 開会

### 2. あいさつ

松岡委員を座長に選任。

### 3. 議題

- (1) 長浜市認知症とともに生きるまち推進会議について
- (2) 長浜市認知症初期集中支援推進事業について
- (3) 認知症地域支援推進員の活動について
- (4) 長浜市認知症施策推進計画について
  - ・令和 7 年度認知症関連施策の実績について
  - ・長浜市認知症施策推進計画の策定について

### 意見交換・質疑応答

| 発 言 者                     | 内 容                                                                       |
|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 委 員                       | 当事者や家族が集まって、気軽に相談や情報共有ができる居場所があることが重要だと感じている。                             |
| 地 域<br>包 括 支 援<br>セ ン タ ー | 昨年度から開始準備を進めている「あじさいカフェ」等を通じて、当事者の方が参加しやすく、一緒に考えながら取り組める場をつくっていきたいと考えている。 |

|                           |                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事 務 局                     | 居場所の情報は、あんしんガイドブック(P8～9)にも掲載している。                                                                                                                                                                                                  |
| 委 員                       | 現場のケアマネジャーとして、認知症の症状に気づいてから受診まで半年以上かかるケースが見受けられる。早期発見・早期対応が重要であるため、かかりつけ医や薬剤師、ケアマネジャーが異変を初期段階で共有し合えるような相談ルートや仕組みがあるとよい。                                                                                                            |
| 地 域<br>包 括 支 援<br>セ ン タ ー | 包括支援センターへの新規相談でも、長年かかりつけ医に通院していて(必要性があっても)介護保険の申請に繋がっていないケースがある。今年度も医療機関と連携し、相談ルートの周知・啓発に努めていく。                                                                                                                                    |
| 委 員                       | 生活支援コーディネーターの視点から、地域の様々な講座や活動は早期発見の場として重要である。一方で、介護予防などに関する講座のメニューが多く、「どの講座に申し込めばよいかわからない」という住民の声もある。事業の整理や、参加しやすい体制づくりをご検討いただければと思う。                                                                                              |
| 事 務 局                     | 認知症講座については、各包括支援センターで様々な方に関心を持ってもらえるよう工夫をしている(昨年度神照郷里地域包括支援センターが外国人サロンにてクイズ形式で実施)。今後もほかの講座についても情報収集しながら、内容を検討していく。                                                                                                                 |
| 委 員                       | <p>家族の会の集いには、一生懸命介護をしてお自身を追い込んでいるご家族も参加されている。ショートステイを利用した際、施設側から対応が難しいと早めに迎えを要請され、結果として「もう利用しない」となってしまうケースもお聞きすることがある。</p> <p>また、GPS 端末の貸し出しについても、「指定の靴を履いてくれない」「服につけるのは無理」といった理由で利用を諦める方がいる。時計型の端末など、選択肢がもう少し増えると良いという意見があった。</p> |
| 事 務 局                     | GPS等については、ご本人の生活状況をお聞きしながら、市の事業だけでなく民間のサービスも含めて、最適な方法を地域包括支援センターから家族へ個別にご相談・提案している。                                                                                                                                                |
| 座 長                       | 行方不明者の発見時のフィードバックはしているのか。                                                                                                                                                                                                          |
| 事 務 局                     | SOS ネットワークの協力者に対しては、発見された際にも、メールにてお知らせを配信している。                                                                                                                                                                                     |

|                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委 員                       | <p>小中学校で認知症サポーター養成講座（絵本教室）を行っている。</p> <p>街中で困っておられた高齢者を見かけた子どもたちが、自分たちでどうしたら良いか相談して高齢者に声をかけたという事例が（市内で）あったと聞いている。小中学校で認知症サポーター養成講座（絵本教室）の効果が出ているのだろうと思う。</p> <p>小学生向けに行った内容を、彼らが中学生になった際にどうステップアップさせるかが今後の課題である。</p> <p>また、当事者の方の働く場所（活躍の場）を作りたいが、家族が「周りに迷惑をかけるから」と躊躇されることが多く、協力者を見つけるのが難しいと感じている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 地 域<br>包 括 支 援<br>セ ン タ ー | <p>養成講座の内容については、認知症キャラバンメイトのみなさんと一緒にその都度検討していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 事 務 局                     | <p>当事者の方の働く場所への参加については、まずはお一人でも協力してくださる方が出てくると、それが希望となり、地域に広がっていくと考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委 員                       | <p>委員のおっしゃったショートステイの途中退所については、どういう理由だったのかというところがある。認知症の状態を理由に迎えにきてくださいということはないと思うが、各事業所、人手不足に悩む中、事業所のキャパオーバーを理由に認知症のある人に途中で帰っていただかないといけないということがあるのであれば、事業所のキャパとのアンバランスさについて整理をしていかないといけない部分だと思うし、市が事業所同士意見交換する場を作っていただきたい。事業所としても、できる限り認知症のある人や家族の支援ができるように、努力をしていきたいと思うので、ご家族の声をたくさんいただきながら、できる工夫をしっかりと、支援を続けていきたい。</p> <p>行方不明事案では、地域の方々の声かけによって発見され、命が救われているケースが多くある。小中学生を含め、地域全体への啓発が非常に重要である。</p> <p>また、最近、認知症の方の（在宅での）介護保険サービス（デイサービス等）の利用が減り、民間参入の有料老人ホーム等へ入居される方が増えている印象がある。ご家族の介護負担を軽減しきれていないのではないかと反省する部分もある。認知症の方の住まいについて（自宅なのか、有料老人ホームなのか等）何か調査はされているか。</p> |
| 事 務 局                     | <p>認知症のある人の住まいについて現在調査はしていない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委 員                       | <p>ショートステイの話があったが、利用者の体調悪化により帰宅いただくことはある。ただ、認知症の PTSD が強く出てきたことから帰宅いただくということではなくて、施設側も利用前に家族へ、どういったときに迎えにきていただくことがあるのか、しっかり説明することが大事だと思う。</p> <p>また、資料のアンケート結果について「認知症になっても住み続けられるまちであ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|     |                                                                                                                                                                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>る」との回答が 39.4%とあるが、この数字の背景(どのような方々が回答し、何を求めているのか)が見えてくると、具体的な行動に繋がしやすいのではないかと感じた。</p>                                                                                                                    |
| 事務局 | <p>アンケートは65歳以上の市民を無作為抽出して実施している。数字の背景や具体的なニーズについては、今後の調査や分析の中で深掘りしていきたい。</p>                                                                                                                               |
| 委員  | <p>成年後見制度の相談件数の、令和7年度より前の相談件数はわかるか。相談件数がかかなり増加しているのかどうか。</p> <p>また、後見人がついている認知症の方が入院された際、医療の同意や方向性について、後見人からは「医療同意はできない」と言われ、ご本人の意向も確認できず、現場が判断に困るケースがある。元気なうちにエンディングノート等でご自身の意向を書き留めておく仕組みが必要ではないか。</p>   |
| 事務局 | <p>医療同意の課題についてはご指摘の通り。長浜米原地域医療センターに委託している講座の中でエンディングノートの啓発を行うとともに、ご本人の意思を事前に確認できる仕組みについても検討していく。</p> <p>成年後見制度の相談件数については、近年高い増加率で増加している(令和5年:118件、令和6年:143件、令和7年:205件)。この増加率をふまえて、相談件数の目標値について再度検討したい。</p> |
| 委員  | <p>アンケートで「新しい認知症観」を知らない人が66%いると回答があった。地域ではまだ「認知症にはなりたくない」というこれまでのイメージが根強い。</p> <p>新しい認知症感になれば、(認知症があっても)カフェで働けるんだとか、そういった風に考えが変わり、この世界が変わってくる。</p>                                                         |
| 座長  | <p>事務局には啓発にも力を入れていただくよう、お願いしたいと思う。</p> <p>委員の皆様から、それぞれ貴重なご意見をいただいた。事務局は、今後の計画の策定、あるいは事業の実施に活用していただければと思う。</p>                                                                                              |

#### 4. 閉会